コンビニでバイトしてたら

三毛猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
コンビニでバイトしてたら

【Ｎコード】
Ｎ１５８０ＢＡ

【作者名】
三毛猫

【あらすじ】
コンビニのバイト店員と、ちょっと変わったおさげの女の子のお話。以前ｔｅｘｐｏにて公開していました。現在ｐｉｘｉｖでも公開中です。

1、当社比1．5倍

コンビニでバイトしてたらセーラー服を着たおさげの女の子がやって来た。

何かを探しているのか、入り口の辺りで妙にモジモジしながら視線をあちこちに彷徨わせていたので、「いらっしゃいませ、何かお探しですか？」と声をかけると、女の子はモジモジしながらレジの方へやって来て、「あ、あの、肉まん、くだ、さい……」と言ったので、「おひとつでよろしいですか？」と肉まんをひとつ袋につめながら聞いたら、女の子は「え、あ、あの、もういっこ、ください……」となぜか頬を真っ赤にしながら言うので別の袋にもう一個肉まんをつめた。

会計をすませると、「あの、お手洗いかしてください」と言って、肉まんを持ってそそくさとトイレに駆け込んで行ったので、あーなるほどトイレ我慢してたからモジモジしてたのか、と思っていたら、出てきた女の子の胸が当社比で1．5倍に増量されていた。

「ありがとうございました！」ってなんだかすっきりした晴れやかな笑顔で、女の子がぺこりと頭を下げたので、「またのご利用をお待ちしています。でも……ヤケドにはご注意ください」って言ったら、「ち、ちがいます、ちがうんです。寒いからカイロがわりなんです！」って真っ赤な顔で主張していた。

2、ダイエットコーラは飲んだら痩せる商品ではない

コンビニでバイトしてたら、いつぞやのセーラー服を着たおさげの女の子がやって来た。

何かまた面白いことをしてくれないかなって、なんとなく目で追っていたら、女の子はスィーツコーナーでケーキを見つめて、わき腹をちょっとつまんではため息をついてケーキを棚に戻すのを繰り返していた。

なるほど、ケーキを食べたいけれどおなか周りがちょっと不安、と。

これはちょっと協力してあげなきゃな、と思っていたら、女の子が何やらひとつうなずいてイチゴのショートケーキとペットボトルのコーラを持ってきたので、「６９５ｋｃａｌになりますがよろしいですか？」と言ったら、女の子はお財布から５００円玉を１枚と、１００円玉を２枚出そうとして、ちょっと首をかしげて、それから「ケーキが２９８円で、コーラが１５０円だから…」ってつぶやいて、指を折りながら計算して「５００円で足りますよね？」って言ったので、「はい。でも６９５ｋｃａｌになりますがよろしいですか？」って言ったら「え…。ひどいです！　なんで高くなるんですか？」って言うので「コーラって結構カロリー高いんですよ」って答えたら「え、え？」って慌てて、それから「あっ」って言って、走ってコーラを戻してお茶のペットボトルを持っきて、真っ赤な顔で「こ、こっちにしてくださいっ！」って言ったので５００円玉を受け取ってお釣りを渡した。

ケーキを戻さないところがかわいいなと思った。

3、ミルキーはママの味？

コンビニでバイトしてたら、セーラー服を着たいつものおさげの女の子が、右手に開いたまま携帯電話を握り締めて、真っ赤な目で、鼻をすすりながら、左手で涙をぬぐうようにしてやって来た。

いったいどうしたんだろうって思っていたら、無言でぽろぽろ涙を流しながら商品を持ってきたので、何かあったのかな、気になるなと思いながら会計を済ませると、女の子がぺこっと頭を下げて帰ろうとしたので、「あの、悲しいときには甘いもの食べると落ち着きますよ。よかったらどうぞ」ってポケットからミルクキャンディーを1個差し出したら、「あはは…」って女の子は泣き顔のままちょっぴり微笑んで、「お気遣いありがどうございまず。でぼ、だだのがぶんじょうなんでずよぅ…」って言って買ったばかりのマスクを着用してみせた。

「お大事に…」と言いながら、小さな白い手にキャンディーを握らせると、彼女はずず、っと鼻をすすりあげて、キャンディーを握り締めたままの左手で涙をぬぐった。

「…あでぃがどう、ございまず…」

彼女は小さくつぶやいて、また、ぺこっとおじぎをして店を出て行った。

何の力にもなれない赤の他人の自分がちょっと悲しかった。

がんばれ、って心の中でつぶやいた。

4、その日は2月10日

コンビニでバイトしてたら、いつもはセーラー服のおさげの彼女が、白いワンピースを着てやってきたので、私服みるのは初めてだなって思っていると、彼女はバレンタインの特設コーナーの前で右手の人差し指を下唇にあてて小首を傾げるようにしてなにやら小声でぶつぶつと独り言をつぶやき始めた。

あー、この時期、女の子は色々大変だよねぇ、って思っていると、彼女は何やらこちらにちらりと目を向けて、それからお菓子のコーナーの方に行ってしまった。

おや、チョコ買わないのかなって思っていたら、彼女が袋入りの一口サイズのチョコがたくさん入ったヤツを持ってきたので、なるほど、義理チョコばらまくならお徳用が一番だよねと思わずうなずきながら会計をした。

会計を済ませると、彼女はその場で袋を開けてチョコを3つばかり取り出して、「あの、こないだ頂いたキャンディーのお礼です」ってこちらに差し出してきたので「え、あ、ありがとうございます」って受け取ったら

「き、今日は14日じゃないですから。特別な意味なんてないんですからね！」ってなんか頬を染めながら、たたたっと小走りに店を出て行ってしまった。

わたしは髪を短めにしてるし、背が高いからたまに間違われることがあるのだけれど、一応これでも女の子なので、気持ちはありがたいんだけれど特別な意味とかあったらちょっと困るなって思った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1580ba/

コンビニでバイトしてたら

2012年1月4日00時52分発行